

## 会 議 録

会議名 (審議会等名)		令和6年度第2回相模原市立図書館協議会		
事務局 (担当課)		相模原市立図書館 電話：042-754-3604 (直通)		
開催日時		令和6年10月10日(木) 午後6時～8時		
開催場所		相模原市立図書館 2階 中集会室		
出席者	委員	10人(別紙のとおり)		
	その他	2人(生涯学習課職員)		
	事務局	11人(図書館長、相模大野図書館長、橋本図書館長、他6人)		
公開の可否		<input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 一部不可	傍聴者数	0人
公開不可・一部不可の場合は、その理由				
会議次第		1 会長及び副会長の選出  2 報告事項 淵野辺駅南口周辺のまちづくりの取組状況について【資料1】  3 議題 令和5年度図書館事業評価について【資料2-1】【資料2-2】【資料2-3】  4 その他		

## 審 議 経 過

主な内容は次のとおり。

### 1 会長及び副会長の選出

委員の互選により、会長に大谷委員、副会長に小山委員が選出された。

### 2 報告事項

淵野辺駅南口周辺のまちづくりの取組状況について

生涯学習課から資料に基づき説明し、質疑応答を行った。

(渥美委員) 資料1の2ページ①～⑤のうち、特に④「これからを見据えて」の中で、滞在型という説明が素晴らしいと思った。本を読むだけではなく、滞在するというニーズがこれから広がっていくと思う。その上で、⑤「複合施設の相乗効果」の中で、複合施設全体をつなぐ機能を挙げられているのも素晴らしいと思いました。

(渡辺(裕)委員) 図書館は基本的にワンフロアで完成するイメージなのか。または、何階建てになるとか、どういう方向性を考えていますか。

(生涯学習課) 複合施設の規模として、延床面積は7,500㎡程度を想定しています。建物の高さについては、建設をするのが鹿沼公園の中になるので、公園との調和を図るよう、あまり高いものではなく、ある程度低層をと考えています。

図書館の本の配架についても、一か所にまとめるのではなく、ある程度分散し、建物全体が図書館となるようにしたいと考えています。

(渡辺(裕)委員) 以前よく使っていた図書館は駅ビルのようなところで、子どものフロアと大人の本のフロアなどが階ごとに分かれていて、行き来がしんどいと思っていた。大人でもそう感じるので、エレベーターがあるとはいえ、高齢の方や子ども連れの方などはつらいところもあるのではないかと感じていた。ワンフロアである程度広いところなら高齢の方も散歩がてら歩いて、健康につながるのでは、生活のルーティンに組み込めるのでは、と思う。

(生涯学習課) フロアが広く取ればという思いはあるが、立地が公園の中になるので、公園等との兼ね合いの中で、可能な限りフロアが確保できるよう検討していきたい。

(大谷会長) 今後、このプランが具体的になればなるほど、実際には図書館がかなり関わってくることになって、図書館としてどうするのかを検討する場面が増えてくると思う。協議会で時々報告をしていただいているの

で、その情報を基に、図書館で考えていることを聞いたり、場合によっては、協議会としてこういうところも機能として必要なのではないか、こういう要素も考えてほしいなどの意見や要望を出したりする場面も出てくると思うので、じっくり検討していきたい。

### 3 議題

令和5年度図書館事業評価について【資料2-1】【資料2-2】【資料2-3】事務局から資料に基づき説明し、質疑応答を行った。

(大谷会長) 図書館事業評価の流れとして、年度の2回目ぐらいの協議会で事務局から内部評価までを作成した原案が示される。それを基に各委員から意見をいただき、総評については会長が文案を作成している。

例えば、昨年度は複数の委員から「くるくる としょかん」の評価が高かったので、その意見を総評の中に反映した。そうした必要性もあるので、ぜひ皆さんのご意見をお願いしたい。また、総合評価と、総合評価に加えた特記事項は、当日の図書館協議会での協議を踏まえて、最終的に決定した。

総評について、最初の段落は、まず図書館の評価が手続きとして適正かどうかを確認する部分ということになる。資料2-2をご覧になって、図書館が適正に評価を行っているということをご確認いただきたい。また、最後の段落で委員の意見を整理し資料編に掲載したとあるが、実際は全て掲載している。総評とは必ずしも同じではない意見もあるが、皆さんのご意見として出すべきであろうということで、そのまま掲載している。総評は概してこうであったと丸めて書かざるを得ないこともあるので、資料編の方では、各委員の意見の内容を変えずに、内容ごとに整理して掲載している。資料2-3のご意見シートを見ると、内容については指定がないが、資料編に整理して掲載する上で、評価のどの点についての意見なのかを記載いただくようになっている。

また、評価の読み方について、特に今期から就任された方は、まず内部評価をご覧いただき、気になった点があれば、関連の部分を前の方に遡って見るというやり方がいいかもしれない。評価書の先頭から読み通すのはおそらく大変であると思う。内部評価は図書館としての結論が書かれている部分なので、まずそこを読んでから、気になる点について各館の自己評価等の関連する部分を確認してみて、それから個人の考えを出していただくと良いのではないかな。

評価の方法や、評価内容について確認したい点があれば、ご発言をお願いしたい。

(小山副会長) 会長がおっしゃったように、図書館が自分たちをどのように評価したのかについてまず目を通しつつ、数字も気になるので、基本的な統計と実績値との係わりについて、特に前年比を見ながら評価している。

加えて、関心のあるところを重点的に見れば良いと思う。例えば、普段利用している図書館や公民館図書室について疑問に感じていることが評価で示されているかなど、気になる点を重点的に確認するという方法もある。

(大谷会長) 全項目に意見をとると思うと大変なので、意見がないところについてはそれで構わない。気になる部分やおかしいと思う部分などについて、ぜひ意見を出してほしい。様々な立場から意見を出すことで、総体として評価の内容がカバーできていればそれで良いと考える。

(渡辺(晃)委員) 私は子育て世代の方々を対象に仕事や活動をしている。蔵書の利用について、一番多いのは70歳代以上と記載があり、他方で子どもたちは今読書から離れているということが言われている。図書館の基本目標には、「子どもが読書を楽しみ「生きる力」を育む図書館」があるが、図書館で「生きる力」をどのように育むのか、まだ自分の想像が追いついていない。そういった、自分が感じたことを書けば良いのかなと思った。

例えば「くるくる としょかん」の取組を見て、未来の子ども達への想いが感じられる一方で、読書離れの傾向があることや、今の子どもたちがタブレットなども使いこなす様子を見ているので、正直どこまで本に対して気持ちが注がれるのか、と思うところもある。図書館が魅力的になり、本を手にとって見たいという気持ちが生まれるような、そういう図書館を作っていくということなのだろうと感じた。

また、年配者の意見をどこまで反映されるのか。回覧板など見ても、子育て世代の人よりも、年配向けの案内が多いように感じる。学校連携の必要性についても、そこまで図書館で行う必要があるものなのか気になる。自分の利用体験として、保育園や幼稚園で勤務しているときに図書館で紙芝居などを借りたり、学生時代に勉強で使ったりしていた。今の時代に合った絵本の見せ方、工夫などがあると良いのではないか。

(大谷会長) お感じになったことを端的にぶつけていただければ良いと思う。例えば子どもの読書については難しい課題もある一方で、タブレットを子ども達に与えれば良いという極端なスタンスでGIGAスクール構想が実現した。「ググって解決」というトーンが感じられるが、例えば地域の情報など、全てデジタル化されていない以上、検索して解決できるわけではない。そうしたことを、子ども達にどうやって体験してもらうか、ということを考えていければ良い。そのように、子育て支援の活動をして

いる立場で直面している課題があれば率直に意見を出していただき、施策や成果指標の状況を踏まえ、私たちから提案できる意見があれば出すし、無ければ図書館にも継続的に考えてほしいということの評価として出すということになるかと思う。

また、子育て支援に係る立場の代表であるから、シニア世代に対する意見を出すのに無理があるということではないので、立場にとらわれずに意見を出してほしい。

(渥美委員) 外部と内部とは何なのかということに迷っている。例えば、企業であれば内部の会計報告を監査人が見る会計監査があるが、この場合は外部のスタンスであると思う。少しスタンスが異なるのがコンサルタントで、企業経営において会社の内部の論理で分からないことをコンサルタントに提案してもらう。これは比較的協力的な立場である。また、アドバイザーはもっと内部に近い立場で、経営陣と一緒に考えている。この3区分があるとイメージした。その上で、令和4年度の評価書を読むと、基本的な述語は「努めてもらいたい」「確認すべきである」というような表現で、伴走型というよりは、かなり距離を取っているようなスタンスであると感じられた。

私としては、これだけの資料を作るだけで相当大変で苦労されていると思うので、もっと寄り添った立場での外部評価もあり得るのではないかと、という印象を持った。

(大谷会長) そもそも第三者評価という時の「第三者」とは何か、ということかと思う。図書館協議会は、完全な第三者というわけではない。他方で、図書館で評価を行うことが奨励された際に、「図書館の設置及び運営上の望ましい基準」に図書館協議会が評価を行うよう努めるという記述があることもあって、協議会を設置している図書館では、協議会が外部評価を行っている事例が多い。その際に、図書館協議会が評価を行う時の立ち位置や距離感がどうあるべきかは難しい。

総評案は会長が作成しているが、総評のトーンとしては第三者的な視点の記載になっている一方で、委員の皆さんのご意見を見ると、寄り添うスタンスが多かったように思う。ただ、あまり寄り添うばかりのスタンス一辺倒になってしまうことにも難しさを感じる。

例えば、成果指標の達成状況が悪いことに対して、悪いということを描き出すだけでなく、昨年度の総評では、もともとの計画を見直してはどうかということも示している。計画期間内にコロナ禍があって、達成できないことは気の毒に思う一方で、だからと言って達成できないことに対してそれで良いということも違うだろうと考えている。だからこそ、

見直しも含めての示唆を行った。そのように、できている／できていないの部分はシビアに見つつも、それをどのように受け止めて改善すべきかをできるだけ書くように努めてきたが、今のご指摘を踏まえて、副会長とも相談しながら、指摘するだけではなく、できるようにするにはどうしたらいいかということに配慮していきたい。

(渡辺(裕)委員) 資料が事前送付されてきた時に拝見し、難しい印象だったが、今回皆さんのお話を伺って見るべきポイントが分かったので、評価していきたい。

この部分についてこう評価できる、ということも記載するつもりだが、全体として自分が感じた印象を意見として出しても良いのか。

(大谷会長) 総体として自分はこう思っているという意見も当然あると思う。

意見を掲載する際に、「その他」という項目分けもしているので、無理に施策や成果指標に紐づけなくても良い。

図書館がそれらの意見を振り返って、次の計画への反映などを考えるということもあると思う。

多面的な意見はあってしかるべきで、ぜひ出してもらいたい。

(渡辺(裕)委員) 提出は様式に沿っていなくても良いですか。例えばメール本文に記載して提出でも良いですか。

(事務局) 問題ありません。

(大谷会長) 様式的に整えなくても、内容や対応箇所が分かれば良い。短時間で意見を出すのは大変だと思うが、分からないことがあれば事務局に聞いてほしい。事務局側もサポートをお願いしたい。

## 2 その他

- ・ 図書館等の臨時休館について
  - ・ ガバメントクラウドファンディングについて
  - ・ 市立図書館 50 周年記念事業について
  - ・ 相模大野図書館のトピック
  - ・ 橋本図書館のトピック
  - ・ 窓口業務等委託事業者の決定について
- 事務局から説明し、質疑応答を行った。

(渡辺(裕)委員) 窓口業務等委託事業者の決定について、前回の3年間と同じ事業者を選定したということだが、提案が良かったため同じ事業者が選ばれたということか。提案が良い場合は、同一事業者が今後も継続的に受託していくということは可能なのか。

また、窓口業務等を民間事業者に委託している一方で、市の会計年度職員の募集も行っていたが、市の職員がカウンター業務を離れてどのような業務を行っているか知りたい。

(事務局) 契約期間は3年で一旦切れて、再度入札等の選定を行う。提案が良いので、同じ事業者と随意契約で継続できるということではない。

また、市職員の役割として、図書館ネットワーク（電算システム・配送）の管理や、図書館サービスの総合的な調整など、窓口業務全般以外の業務を担っている。今回の会計年度職員の募集については、育休中の職員の育休代替としての募集であり、窓口業務ではなく、事務補助の業務となっている。

(渡辺(裕)委員) 3年間で事業者が変わり得るという点について、サービスの継続という点で課題があるように思う。

(事務局) 継続性が失われないよう、業務開始までゆとりあるスケジュールが組めるような日程で入札を行い、業務の引継ぎがしっかりとできるように配慮している。

以 上

相模原市立図書館協議会委員出欠席名簿

	役 職	氏 名	所 属 等	出欠席
1	会 長	大谷 康晴	青山学院大学教授	出 席
2	副 会 長	小山 憲司	中央大学教授	出 席
3	委 員	佐藤 玲子	相模原市立小学校長会	出 席
4	〃	渡部 賢一	相模原市立中学校長会	出 席
5	〃	末永 暁子	相模原市公民館連絡協議会	出 席
6	〃	金子 友枝	相模原市社会教育委員会議	出 席
7	〃	渡辺 晃子	みらい子育てネットさがみはら 連絡協議会	出 席
8	〃	松浦 浩樹	和泉短期大学教授	出 席
9	〃	渥美 聡一郎	公募	出 席
10	〃	渡辺 裕子	公募	出 席